

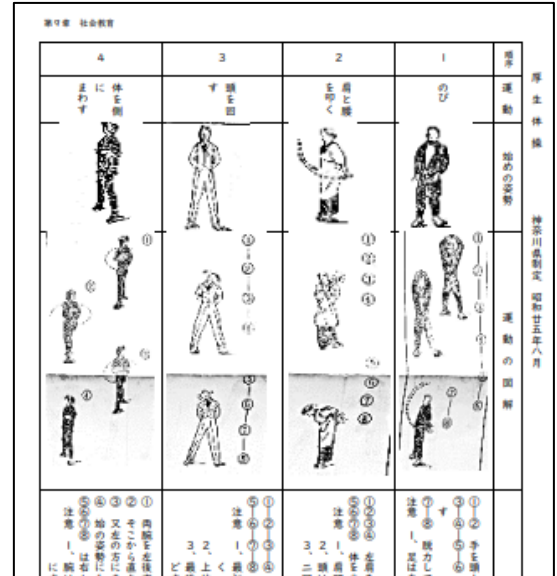
神奈川県教育史（戦後編）の編纂に関連する令和6年度の取組や情報をお伝えします。

1 神奈川県教育史（1945～72）資料編の活用

令和4年度に刊行した『神奈川県教育史 1945～1972 資料編（下）』の1,111～1,115ページには、昭和25年県が制定した「厚生体操」という資料が掲載されています。

山北町教育委員会所蔵の簿冊「昭和二十六年 学事書類共和村役場」に収録されており、「厚生体操」と「健民体操」の二つが、それぞれ1～8の運動として示されています。「備考」には、「一、この体操は、会社、工場、官公庁等で作業や事務に従事している人達が、その場で立ち上がって体のこりを取除き、疲労を回復し、老人や婦人、子供又は体操になれない人達が、体を動かして健康を増進する為に考えたものである」と書かれていますが、当時、どれくらい普及したのでしょうか？

ちなみに、学校教育支援課学校支援班では、休憩時間などにこの体操を実演し、体をほぐしてみました。



2 教育史関係の放送映像について

総合教育センターが所蔵する膨大な教育映像資料（昭和50年代から制作されTVKなどで放映された教育番組）の中に、教育史に係るものいくつか存在します。

『教師の時間』という放送時間20分の番組には、次の5コンテンツが並びます。

- ①「神奈川県教育史～新制中学校発足のころ～」
- ②「神奈川県教育史～終戦前後の小学校教育～」
- ③「神奈川県教育史～学制発布前後の教育～」
- ④「神奈川県教育史～明治期の中等普通教育～」
- ⑤「神奈川県教育史～創設期の実業教育～」

これらはいずれも、1978～84年にかけて制作されたものです。

例えば①。新制中学校は、校舎や教室の整備が大きな課題であり、平塚市立大野中学校は戦争中の火薬庫を教室として利用したこと、清川村立宮ヶ瀬中学校は、開校当初小学校の教員住宅を仕切って教室にしたことなどを、当時の校長やそこで学んだ生徒のインタビューを交えて紹介。最後に元横浜市立中学校長が、「不足だらけ、不満だらけの子どもたちだったが、今の中学校でよくある粗暴な振る舞いは絶無だった。父母と先生たちと子どもたちが一体となっていたからだ」と述べています。

この映像が制作された1983年は、横浜で中学生による「浮浪者襲撃殺傷」事件が起き、特に中学生の非行、県内の家庭内暴力・校内暴力もピークの年でした。

ちなみに『神奈川県教育史 1945～1972 資料編（下）』には、川崎市教育委員会『学校施設 荊茨の道』が採録され、校地・校舎・教室の確保、整備が困難を極めたことが分かります。

これらの映像は教育史編纂に資することはもちろん、小中学校の社会科、高等学校の歴史総合、あるいは総合的な学習（探究）の時間の教材として活用できるものもあると思います。

視聴をご希望の方は、学校教育支援課学校支援班までお問い合わせください。



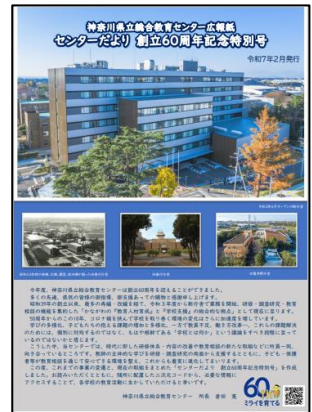
3 「かながわティーチャーズデイ」での展示と「センターだより特別号」



総合教育センター創立 60 周年記念事業の一環として、8 月 20 日の「かながわティーチャーズデイ」の日から 1 F ロビーに掲示物を展示しました。平成 14 年の総合教育センター設立から今日までの歩みを「研修」・「研究」・「教育相談」という 3 つの役割を中心にまとめ、2 月 4 日に発行された「センターだより特別号」の基になったものです。

「特別号」は、ウェブページに掲載し、随所に二次元コードを配置して研究成果物等を見ることができるようになっています。

広く活用されることを願います。



4 寄贈された明治時代の教育史資料について



9 月下旬、県民の方から寄贈された明治時代の教科書（地理 1 点、書道 3 点など）のうち、地理の教科書について取り上げます。

表紙には「三浦郡生徒用 地理総論 全」と墨書され、奥付には、明治二十六年六月六日発行、編輯兼発行者は三浦郡教育會と記載されています。

この教科書は「高等科第一学年地誌」で、日清戦争開戦の前年の 1893 年に発行されました。`地方誌教科書、と呼ばれる、教科書国定制（1903 年～）以前に採用された府県別の地誌の教科書のようなのです。この時点の小学校制度は、尋常小学校 3 年または 4 年が義務教育年限、さらに上級の高等小学校に進む場合は 2 年・3 年または 4 年でした。この教科書は、高等小学校の第一学年で使われたものです。内容は、「地理総論」「三浦郡地誌」「神奈川県地誌」「日本地誌」の四部構成で、それぞれの「地誌」の冒頭には該当する区域の地図も掲載されています。総合教育センターは、全国でも類を見ない 26,582 冊もの戦後の教科書を所蔵しており、折にふれて展示していますが、今回寄贈されたような、戦前の教科書類の整理も今後の課題です。

5 教育史資料を活用した研修について

10 月 22 日、中堅教諭等資質向上研修講座（中学校社会科）で、『神奈川県教育史 1945～1972 資料編（上）』に掲載した資料を用いて、1 時間分の授業計画案をグループごとに検討し、ワークシートの作成に取り組む演習を行いました。

活用した資料は、①川崎市幸町国民学校比々多村疎開分団 [概況報告] (P.123)、②分団日誌川崎市平間国民学校大山町疎開分団「分団日誌」(P.124)、③総選挙ニ対スル棄権防止運動ニ関スル件 (P.32)、④改正憲法ノ精神並びニ趣旨ノ徹底ニついて (P.48) の四つで、次のような授業案が発表されました。

- A 戦後初の普通選挙の男女別投票者数などを確認し、初の女子普通選挙を考察する授業。(歴史)
- B 資料や回想録を読み、児童、母、先生など、疎開中の人々の心情を考察する授業。(歴史)
- C 戦後と現代の日本の投票率を比較し、投票率向上のポイントを考察する授業。(公民)
- D 疎開する必要のあった地域と疎開先の地域の特徴を地理的に比較し考察する授業。(地理)
- E 戦後の子どもの学びや教育がどのように変わっていくのかを考察する授業。(歴史)
- F 資料から過去と現代の選挙課題を比較し、投票率向上の工夫について考察する授業。(公民)

受講者は、資料をじっくりと読み、現代と違う教育の様子に大きな驚きと関心を持った様子でした。そして、資料を教材として活用する工夫についてグループのメンバーで真剣に検討し、有意義な時間でした。研修担当からは、機会があったら今回検討した授業を実践し、情報提供してほしいと伝えました。今後も研修や会議などで教育史のことを取り上げ、活用の場を広げていきたいと考えています。この研修の様子はセンターだより 73 号（11 月発行）にも掲載しました。